【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和2年4月9日(2020.4.9)

【公開番号】特開2019-11435(P2019-11435A)
【公開日】平成31年1月24日(2019.1.24)
【年通号数】公開・登録公報2019-003
【出願番号】特願2017-129528(P2017-129528)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｄ　11/10　(2014.01)
Ｃ０９Ｄ　11/037　(2014.01)
Ｃ０９Ｃ　1/36　(2006.01)
Ｃ０９Ｃ　3/06　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/20　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/40　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/32　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｄ　11/10
Ｃ０９Ｄ　11/037
Ｃ０９Ｃ　1/36
Ｃ０９Ｃ　3/06
Ｂ３２Ｂ　27/20　Ａ
Ｂ３２Ｂ　27/40
Ｂ３２Ｂ　27/32　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和2年3月2日(2020.3.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
基材１、印刷層、接着剤層、および基材２を順に有するラミネート積層体であって、
基材１における印刷層と接する面の濡れ指数は、３０～６０ｄｙｎｅ／ｃｍであり、
前記印刷層は酸化チタン顔料、ポリウレタン樹脂および塩素化ポリオレフィン樹脂を含むグラビアインキから形成された印刷層を含み、
前記酸化チタン顔料は、少なくともシリカおよび／またはアルミナからなる処理層を有するルチル型酸化チタンであり、
前記塩素化ポリオレフィン樹脂の塩素含有率が、２５～４５質量％であり、かつ前記グラビアインキ１００質量％中に０．１～２質量％の範囲で含有する、ラミネート積層体。
【請求項２】
印刷層は、更に塩化ビニル共重合樹脂および／またはセルロース系樹脂を含み、ポリウレタン樹脂と、塩化ビニル共重合樹脂およびセルロース系樹脂と、を９５／５～４０／６０の質量比で含有する請求項１に記載のラミネート積層体。
【請求項３】
ポリウレタン樹脂は、少なくともポリエステルポリオール由来の構造単位を有するポリウレタン樹脂である請求項１または２に記載のラミネート積層体。
【請求項４】

ポリウレタン樹脂は、ポリエステルポリオール由来の構造単位と、ポリエーテルポリオール由来の構造単位とを、５５／４５～９９／１の質量比で含有することを特徴とする、請求項１から３いずれかに記載のラミネート積層体。
【請求項５】
ポリウレタン樹脂は、下記一般式（１）で表される構造を有することを特徴とする、請求項１から４いずれかに記載のラミネート積層体。
一般式（１）
－ＣＯＯ－ＣＨ$_2$ＣＲ^{1}Ｒ^{2}ＣＨ$_2$－ＯＣＯ－
（式中、Ｒ^{1}はアルキル基、Ｒ^{2}は水素原子またはアルキル基を表す。）
【請求項６】
塩素化ポリオレフィン樹脂が、塩素化ポリプロピレン樹脂であることを特徴とする、請求項１から５いずれかに記載のラミネート積層体。
【請求項７】
酸化チタンの、ＪＩＳＫ５１０１に規定されている測定法による吸油量が、１４～３５ｍｌ／１００ｇである、請求項１～６いずれかに記載のラミネート積層体。
【請求項８】
酸化チタンの、平均粒子径は、０．１５～０．３５μｍである、請求項１～７いずれかに記載のラミネート積層体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
すなわち、本発明は、基材１、印刷層、接着剤層、および基材２を順に有するラミネート積層体であって、
基材１における印刷層と接する面の濡れ指数は、３０～６０ｄｙｎｅ／ｃｍであり、
前記印刷層は酸化チタン顔料、ポリウレタン樹脂および塩素化ポリオレフィン樹脂を含むグラビアインキから形成された印刷層を含み、
前記酸化チタン顔料は、少なくともシリカおよび／またはアルミナからなる処理層を有するルチル型酸化チタンであり、
前記塩素化ポリオレフィン樹脂の塩素含有率が、２５～４５質量％であり、かつ前記グラビアインキ１００質量％中に０．１～２質量％の範囲で含有する、ラミネート積層体に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
また、本発明は、印刷層は、更に塩化ビニル共重合樹脂および／またはセルロース系樹脂を含み、ポリウレタン樹脂と、塩化ビニル共重合樹脂およびセルロース系樹脂と、を９５／５～４０／６０の質量比で含有する上記ラミネート積層体に関する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
また、本発明は、ポリウレタン樹脂は、少なくともポリエステルポリオール由来の構造単

位を有するポリウレタン樹脂である上記ラミネート積層体に関する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
また、本発明は、ポリウレタン樹脂は、ポリエステルポリオール由来の構造単位と、ポリエーテルポリオール由来の構造単位とを、５５／４５～９９／１の質量比で含有することを特徴とする、上記ラミネート積層体に関する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
また、本発明は、ポリウレタン樹脂は、下記一般式（１）で表される構造を有することを特徴とする、上記ラミネート積層体に関する。
一般式（１）
－ＣＯＯ－ＣＨ$_2$ＣＲ^{1}Ｒ^{2}ＣＨ$_2$－ＯＣＯ－
（式中、Ｒ^{1}はアルキル基、Ｒ^{2}は水素原子またはアルキル基を表す。）
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
また、本発明は、塩素化ポリオレフィン樹脂が、塩素化ポリプロピレン樹脂であることを特徴とする、上記ラミネート積層体に関する。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
また、本発明は、酸化チタンの、ＪＩＳＫ５１０１に規定されている測定法による吸油量が、１４～３５ｍｌ／１００ｇである、上記ラミネート積層体に関する。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
また、本発明は、酸化チタンの、平均粒子径は、０．１５～０．３５μｍである、上記ラミネート積層体に関する。